

**福山大学 安全安心防災教育研究センター 2020年度 自己点検・評価書**

<b>基準1. 理念・目的</b>	
<b>領域:</b>	<b>使命・目的、教育目的</b>
2020年度	安全安心防災教育研究センター
<b>中長期計画</b>	「福山大学安全安心防災教育研究センター」(以降、当センターと記する)は、福山大学学則第3条の2に則り設置されており、「福山大学安全安心防災教育研究センター規程」第1条の設置の趣旨、第2条に示された設置目的は、福山大学の建学理念、目的に沿ったものである。当センターの理念、目的、更には、教育目標を大学構成員だけでなく社会一般にも理解していただけるように、他大学や自治体、教育委員会、企業、地域、住民、学生等に公表する機会を増やしてゆく。
2020年度	安全安心防災教育研究センター
<b>中点検項目</b>	<b>1-1. 大学、学部、学科、研究センター及び委員会等は、それぞれの使命・目的及び教育目的を設定していますか。</b>
<b>点検項目</b>	<b>① その意味・内容は具体的かつ明確ですか。</b>
現状説明	福山大学研究推進委員会の設立に伴い、その目的に則って当センターの規程の改正を実施しており、「福山大学安全安心防災教育研究センター規程」第1条の設置の趣旨、第2条に示された設置目的は、福山大学の建学理念、目的に沿ったものとなっている。
年度目標	現状を維持
年度報告	使命・目的はセンター規程に明確に記載されている。
達成度	<b>A</b>
改善課題	
根拠資料	①安全安心防災教育研究センター規定
<b>点検項目</b>	<b>② 個性・特色を明示していますか。</b>
現状説明	ソフト防災研究、ハード防災研究、防災教育の3方向に亘る防災への取り組みを行う2部門と、環境、福祉等スマートコミュニティに関わる1部門を設置して、取り組みを明示的にを行うと共にHPにその目的、役割を明記している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	<b>A</b>
改善課題	
根拠資料	①安全安心防災教育研究センター規定、②安全安心防災教育研究センター平成30年度活動報告書、③センターHP
次年度の課題と改善の方策	
<b>点検項目</b>	<b>③ 社会の要請や背景の変化について検討していますか。</b>
現状説明	センター運営委員会を6回定期的に開催し、センター及び各部門の理念・目的が社会の要請や背景に対し適切性を保持しているか検討を行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	<b>A</b>
改善課題	
根拠資料	①令和2(2020)年度安全安心防災教育研究センター運営委員会議事要旨(第1回～第6回)
次年度の課題と改善の方策	
2020年度	安全安心防災教育研究センター
<b>中点検項目</b>	<b>1-2. 使命・目的及び教育目的の反映</b>
<b>点検項目</b>	<b>① 使命・目的及び教育目的に対し、教職員の理解と支持は得られていますか。</b>
現状説明	年度初めに自己点検計画と共に使命・目的を周知し、理解と支持を得ている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	<b>A</b>
改善課題	
根拠資料	①令和2(2020)年度安全安心防災教育研究センター運営委員会議事要旨(第1回)
次年度の課題と改善の方策	
<b>点検項目</b>	<b>② 学内外へ公表し、周知していますか。</b>
現状説明	サイトの管理体制を明確化して充実化検討を行い、センターのサイトの見直し・充実化を実施している。
年度目標	大学HPの刷新に伴い、該当階層のHPの刷新を行う。

年度報告	一昨年度に刷新し大きな要変更箇所は無かったが、人員構成等細かな更新ができていなかった。
達成度	<b>B</b>
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	状況の変化に併せ、適切に更新する。
点検項目	<b>③ 中長期的計画に反映していますか。</b>
現状説明	運営委員会にて定期的に検証を行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	自己点検報告・計画時に運営委員会で確認を行い。必要があれば運営委員会で適宜議論するようにしている。
達成度	<b>A</b>
改善課題	
根拠資料	①令和2(2020)年度安全安心防災教育研究センター運営委員会議事要旨（第1回～第6回）
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	<b>④ 三つのポリシーに反映していますか。</b>
現状説明	センターは研究組織であり3ポリシーは所有しないが、その目的・使命は。大学のポリシーと母体である工学部のポリシーに沿うものとなっている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	<b>A</b>
改善課題	
根拠資料	①学生便覧2019（工学部の3ポリシー）
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	<b>⑤ 教育研究組織の構成との整合性は取れていますか。</b>
現状説明	毎年兼任教員の見直しを行い、整合性を確保している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	<b>A</b>
改善課題	
根拠資料	①令和2年度兼任教員
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

安全安心防災教育研究センター

## 基準2. 学生

### 領域： 学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応

2020年度

安全安心防災教育研究センター

中長期計画	・本研究センターは学生の受け入れには直接関わらないが、防災教育、卒業研究やひとまち・くらしプロジェクト他の研究プロジェクトに対する支援、修士・博士課程での研究支援を行うと共に、学生の学習環境の整備を工学部と連携して継続的に行っていく。
-------	---

2020年度

安全安心防災教育研究センター

中点検項目	<b>2-1. 学生の受入れ</b>
点検項目	<b>① 教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と学内外への周知を行っていますか。</b>
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	<b>② アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れていることを検証し、学生受入れの改善に生かしていますか。</b>
現状説明	

年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	㊦ 入学生受入れ状況を昨年度及び今年度について検証し、その増減の原因を分析していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	㊧ 入学定員に沿った適切な学生受入数を維持できていますか。できていない場合、どのような対策を実施していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

安全安心防災教育研究センター

中点検項目	2-2. 学修支援
点検項目	① 学修体制の整備のため、どのような教員と職員等の間でどのような協働をしていますか。また、それを学内外に公表し周知していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 学修支援の充実のために、TA(Teaching Assistant)等を有効に活用していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

安全安心防災教育研究センター

中点検項目	2-3. キャリア支援
点検項目	① 教育課程内外を通じて社会的・職業的自立に関するキャリア形成支援体制を整備していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①

次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 卒業生の進路に関する過去3年間にわたる資料を収集し、検証していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 資格取得やインターンシップを支援する体制を整備していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 就職指導を適切に行い、就職の質及び内定率の向上に取り組んでいますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

安全安心防災教育研究センター

中点検項目	2-4. 学生サービス
点検項目	① 学生生活の継続のための経済的支援は実施されていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 種々のハラスメントの発生防止に取り組んでいますか。
現状説明	運営母体である工学部と連動して実施している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①福山大学キャンパスハラスメントの防止等に関するガイドライン
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 課外活動(サークル活動、留学等の国際交流、社会貢献活動を含む)の活性化のために、どのような取り組みを行っていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	

2020年度		安全安心防災教育研究センター
中点検項目	2-5. 学修環境の整備	
点検項目	① 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理をどのように実施しています	
現状説明	運営母体である工学部と連動して実施している。	
年度目標	現状を維持	
年度報告	現状を維持した。	
達成度	A	
改善課題		
根拠資料	①令和2(2020)年度工学部予算要求書	
次年度の課題と改善の方策		
点検項目	② ICT教室、実習・実験施設、図書館等を活用していますか。	
現状説明	センター管轄の施設をプロジェクトスペースに割り当て、センター所管のプロジェクト「ひと・まち・くらしプロジェクト」にて活用している。	
年度目標	プロジェクトの見直しを行い、活用の適切化を実施する。	
年度報告	ひと・まち・くらしプロジェクトの公募を行って新規テーマ1件を含むプロジェクト再編を行い、プロジェクトスペースを割り当てを行う事でプロジェクトスペースの活用の最適化を行った。	
達成度	A	
改善課題		
根拠資料	①令和2(2020)年度安全安心防災教育研究センター運営委員会議事要旨（第5回）	
次年度の課題と改善の方策		
点検項目	③ 施設・整備のバリアフリー化やアメニティスペースの確保など、学生の利便性を高めるために、どのように取り組んでいますか。	
現状説明	施設整備に関しては、運営母体である工学部と連動して実施している。アメニティに関しては研究センターのため、工学部に一任している。	
年度目標	継続して工学部と連携し、本センターに関するバリアフリー化を検討する。	
年度報告	バリアフリー化は大学全体でのバランスを考え、将来の適切な時期に検討する。	
達成度	B	
改善課題	バリアフリー化の可否を継続的に確認する必要がある。	
根拠資料	①	
次年度の課題と改善の方策	継続してバリアフリー化の必要性の確認を行う。	
点検項目	④ 授業を行う学生数等を考慮した適切な施設・設備上の管理をしていますか。	
現状説明	授業の主体は工学部であり、設備の管理も運営母体である工学部が主体となっている。このため、工学部と連携して管理を行っている。	
年度目標	継続して工学部との連携管理を行う。	
年度報告	現状を維持した。	
達成度	A	
改善課題		
根拠資料	①令和3(2021)年度工学部予算要求書	
次年度の課題と改善の方策		
点検項目	⑤ 施設・設備の管理において、防災・防火の観点から整備点検を行っていますか。	
現状説明	危機管理委員会と自然災害発生時のリスクを下げる活動を開始したが、建屋の点検と在留可能建屋の指定には至っていない。全学的な活動への展開には課題が多い。	
年度目標	1. 全学的な建屋の点検、在留可能建屋指定実施に向けた具体的な年度計画を立てる。 2. 危機管理委員会との共同でリスク低減策を検討するWGを作り活動する。	
年度報告	1. 年度後半に危機管理委員会と建屋の点検計画を検討する予定であったが具体化しなかった。 2. 1と同様に危機管理委員会との検討は具体化しなかった。	
達成度	B	
改善課題	危機管理委員会と建屋の点検計画、リスク低減策の検討実施	
根拠資料	①	
次年度の課題と改善の方策	リスク低減策の検討、安全衛生管理のしおりの改訂などと統合的に計画を立て、実行する。	
点検項目	⑥ 施設内に保管している劇物・危険物の管理において、安全管理の観点から管理システムを整備していますか。	
現状説明	全学の危険物管理システムは整備途上であり、従来どおりの施設内危険物管理を実行しているが、資料を残していなかった。	



年度目標	1. 現状の管理を維持し、エビデンスを残す。 2. 全学の危険物管理システムに合わせた管理方法の検討
年度報告	1、2 危険物管理システム稼働に合わせた管理とエビデンスを残す方法の検討を開始した。
達成度	<b>B</b>
改善課題	リスク低減策の検討、安全のしおりの改訂などと統合的に本件も計画を立て、実行する。
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	危険物管理システム稼働に合わせた管理とエビデンスを残す方法の計画と実行する。
点検項目	<b>⑦ 学生及び教職員の安全確保のために、各部署に適切な安全管理教育の実施、災害時避難マニュアルの作成及び防災訓練等を実施していますか。</b>
現状説明	全学の避難可能居室の検討を開始したが、具体的に指定する文書発行に至っていない。 全学での避難訓練は行われたが、自然災害対応マニュアルに沿ったものになっていない。
年度目標	1. 安全衛生委員会と共同で安全衛生管理のしおりを改訂する。 2. 安全衛生委員会と共同で自然災害対応マニュアルの周知徹底活動を計画する。 3. 上記②の計画に沿って、自然災害対応マニュアルの講演を行い、避難訓練も前向きに計画から参画し実行する。
年度報告	1. 安全衛生委員会と安全衛生管理のしおり改訂で合意したが、具体的活動に至っていない。 2. 安全衛生委員会と自然災害対応マニュアル改訂で合意したが、具体的活動に至っていない。 3. 講演を行う機会は設定できず 避難訓練に計画から参画する機会も得られなかった
達成度	<b>B</b>
改善課題	しおり改訂、自然災害対応マニュアル改訂の具体的活動。自然災害対応マニュアルの講演、避難訓練への計画からの参画。
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	安全衛生委員会とも危機管理委員会とも安全衛生管理のしおりと自然災害対応マニュアルの改訂を先行させることで、意見が一致しており、それを実行する。

2020年度

安全安心防災教育研究センター

中点検項目	<b>2-6. 学生の意見・要望への対応</b>
点検項目	<b>① 学修支援に関する学生の意見・要望を把握する体制や、その分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。</b>
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	<b>② 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望を把握する体制や、その分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。</b>
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	<b>③ 学修環境に関する学生の意見・要望を把握する体制や、その分析と検討結果を活用する体制が整備されていますか。</b>
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

安全安心防災教育研究センター

<b>基準3. 教育課程</b>	
<b>領域: 卒業認定、教育課程、学修成果</b>	
2020年度	安全安心防災教育研究センター
<b>中長期計画</b>	
2020年度	安全安心防災教育研究センター
<b>中点検項目</b>	<b>3-1. 単位認定、卒業認定、修了認定</b>
<b>点検項目</b>	① 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーは、学内外に周知されていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
<b>点検項目</b>	② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準（ルーブリック等の評価指標を含む）等の策定はどのように行われ、学内外に周知していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
<b>点検項目</b>	③ 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等を公表し、厳正に適用されていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
2020年度	安全安心防災教育研究センター
<b>中点検項目</b>	<b>3-2. 教育課程及び教授方法</b>
<b>点検項目</b>	① カリキュラム・ポリシーを策定し、学内外に周知していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
<b>点検項目</b>	② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの間に一貫性がありますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
<b>点検項目</b>	③ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程を体系的に編成していますか。
現状説明	

年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	④ 教養教育は専門教育とともに十分に実施されていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	⑤ 教授方法を工夫・開発(ICTの活用を含む)し、効果的に実施していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	⑥ ディプロマ・ポリシーと卒業判定の整合性を考えていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題 と改善の方策	

2020年度

安全安心防災教育研究センター

中点検項目	3-3. 学修成果の点検・評価
点検項目	① 全学及び各学科等のアセスメント・ポリシーの活用も含め、三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用をどのように検証していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバックは、どのように実施されていますか。学修成果の点検・評価結果を教育内容・方法及び学修指導等の改善につなげていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題 と改善の方策	

2020年度

安全安心防災教育研究センター

## 基準4. 教員・職員



領域： 教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援	
2020年度	安全安心防災教育研究センター
中長期計画	<p>当該センターの理念を具現化し、かつ、学内および学外との円滑かつ効果的な連携を図ることができるガバナンスおよびマネージメントが行える管理体制を構築すると共に、教職員の資質の向上を図る。</p> <p>大型の研究施設、研究設備および研究機器等に関しては、研究プロジェクトの実施などをおとして整備する。研究費、備品費等に関しては、研究プロジェクトの実施、各種補助金、共同研究、受託研究、研究助成寄付金および年度予算によって賄う。</p>
2020年度	安全安心防災教育研究センター
中点検項目	4-1. 教学マネジメントの機能性
点検項目	① 大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップが確立され、それが発揮されていますか。当該部署の長は当該部署の教学マネージメントにおいて適切にリーダーシップを発揮していますか。
現状説明	当該センター規程に、学長がセンター長および運営委員の任命権限を有する事が明記されている。また、上位組織である学長が委員長である研究推進委員会において研究プロジェクトに対するマネジメントを受けている。センター長は運営委員会の委員長として、学長の指針に沿った教学マネジメントを遂行している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①福山大学規程、②福山大学安全安心防災教育研究センター規程
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 当該部署では、教職員間で権限・役割を適切に分散し、かつそれぞれの責任を明確化した教学マネジメントを実施していますか。
現状説明	年度の初頭に各運営委委員の担当を明確にし、役割に添ったマネジメントを実施している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①令和2(2020)年度安全安心防災教育研究センター運営委員会議事要旨（第1回）
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 職員の配置と役割の明確化などにより、教学マネージメントの機能性を高めていますか。
現状説明	職員の役割りはセンター規程に明記しており、教学マネージメントの機能性を高めている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①福山大学安全安心防災教育研究センター規程
次年度の課題と改善の方策	
2020年度	安全安心防災教育研究センター
中点検項目	4-2. 教員の配置・職能開発等
点検項目	① 当該部署の教育目的及び教育課程に即した資質を有する教員を配置していますか。また、当該部署の適切な運営及び継続性を担保する構成(性別、年齢、職階等)となっていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	② 大学設置基準、教職課程等の資格養成機関に求められる教員数を確保していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ FD(Faculty Development; 教育内容・方法等の改善)をはじめとする教員の資質向上に向けた取組みを行っていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

安全安心防災教育研究センター

中点検項目	4-3. 職員の研修
点検項目	① SD(Staff Development; 教職員の個々の職能開発)をはじめとする大学運営に関わる教職員の資質・能力向上と教職協働への取組みを実施していますか。
現状説明	工学部、全学のFD・SD研修に参加することにより、教職員の資質・能力向上と教職協働を図っている。
年度目標	継続してFD・SD研修への参加を推進する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①FD 活動報告書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 大学運営の効率改善のために ICTの活用を推進していますか。
現状説明	情報共有にOffice365、Karinを活用している。
年度目標	現状を維持
年度報告	SharePoint、Karinにて運営委員会資料、ひと・まち・くらしプロジェクト資料を格納している他、SharePointをメール審議の資料の閲覧に活用している。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①福山大学キャビネットKarin、SharePoint
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

安全安心防災教育研究センター

中点検項目	4-4. 研究支援
点検項目	① 研究に専念する時間の確保、研究室の施設設備の整備等の研究環境を適切に管理していますか。
現状説明	研究スペースに関しセンターの所管するスペースを研究プロジェクトに割り当てて研究の環境を整えている。研究専念時間に関しては本務である工学部と連携して検討している。
年度目標	継続して研究スペースの割り当てを実施すると共に、研究専念時間の捻出のための業務効率化を工学部と連携して検討していく。
年度報告	研究スペースの割り当てを行って、研究効率向上の支援を行った。研究専念時間に関しては工学部主体で検討している。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①令和2(2020)年度安全安心防災教育研究センター運営委員会議事要旨、②工学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 研究倫理の確立(規則の整備や検査等)と厳正な運用が行われていますか。

現状説明	福山大学学術研究倫理審査委員会規程に則って厳正に運営している。
年度目標	継続して厳正な運営を行う。
年度報告	現状を維持した。
達成度	<b>A</b>
改善課題	
根拠資料	①福山大学学術研究倫理審査委員会規程
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	<b>③ 研究活動への資源の配分や運用は適正に行われていますか。</b>
現状説明	福山大学ブランディング推進のための研究プロジェクトへの課題申請、予算申請を運営委員会にて審議し、研究推進委員会にて承認されたものを工学部事務にて適正に運用して
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	<b>A</b>
改善課題	
根拠資料	①令和3(2021)年度安全安心防災教育研究センター予算要求書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	<b>④ 公的研究費の運営・管理(ガイドライン等)が整備され、周知されていますか。</b>
現状説明	福山大学公的研究費取扱規則が周知されており、規則に則り工学部事務にて運用されてい
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	<b>A</b>
改善課題	
根拠資料	①福山大学公的研究費取扱規則
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

安全安心防災教育研究センター

**基準6. 内部質保証****領域: 組織体制、自己点検・評価、PDCAサイクル**

2020年度

安全安心防災教育研究センター

中長期計画	安全安心防災教育研究センターの教育、研究プロジェクトに関しては、2014年度より構成された自己点検評価委員会がそれらの活動及び成果の自己点検を行い、評価書の作成、公表を行っている。この自己点検評価を軸にPDCAサイクルを回し、改善及びその達成の検証を定着化させることで、教育及び研究活動の内部質保証、向上を行う。
-------	--

2020年度

安全安心防災教育研究センター

中点検項目	<b>6-1. 内部質保証の組織体制</b>
点検項目	<b>① 内部質保証のための組織を整備し、責任体制を確立していますか。</b>
現状説明	センター自己点検評価委員会が組織されており、体制が明確化されている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	<b>A</b>
改善課題	
根拠資料	①福山大学安全安心防災教育研究センター規程、②安全安心防災教育研究センター自己点検評価委員会細則
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

安全安心防災教育研究センター

中点検項目	<b>6-2. 内部質保証のための自己点検・評価</b>
点検項目	<b>① 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価が実施され、その結果を当該部署の教職員が共有していますか。</b>
現状説明	センター自己点検評価委員会の手続きに則った点検評価を受けており、その結果はセンター運営委員、兼任教員に周知して認識を共有している。
年度目標	継続してセンター自己点検評価委員会による点検を行い、内部質保証に努める。
年度報告	現状を維持した。
達成度	<b>A</b>
改善課題	

根拠資料	①令和元年度安全安心防災教育研究センター自己点検評価書、②令和2(2020)年度安全安心防災教育研究センター運営委員会議事要旨(第1回)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② IR(Institutional Research)等を活用した十分な調査・データの収集と分析を行っていますか。また、その結果を改善に活かしていますか。
現状説明	研究成果件数、資金獲得状況等のIR情報を収集し、展開している。
年度目標	更なるIR情報の活用を検討する。
年度報告	研究成果件数、資金獲得状況等のIR情報を収集したが、さらなる活用の検討は行わなかった。
達成度	B
改善課題	さらなるIR活用の検討。
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	さらなるIRの活用を検討する。

2020年度

安全安心防災教育研究センター

中点検項目	6-3. 内部質保証の機能性
点検項目	① 内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組み(システム)をどのように確立し、その機能性を検証していますか。
現状説明	研究推進委員会(学長)を中心とする大学の研究プロジェクトのPDCAサイクルの中で、センターとしてのPDCAサイクルを回す仕組みを構築している。
年度目標	運営委員会、自己点検委員会にて着実なPDCAサイクルを遂行する。
年度報告	PDCAサイクルを継続して遂行した。また福山大学外部評価による研究に関する評価にて機能性の検証を実施した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①令和2(2020)年度安全安心防災教育研究センター運営委員会議事要旨、②福山大学外部評価委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 教職員のコンプライアンスを確立するための体制を整備していますか。
現状説明	運営母体である工学部の体制に従っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①研究関連ガイドブック、②福山大学キャンパスハラスメントの防止等に関するガイドライン
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

安全安心防災教育研究センター

## 基準7. 福山大学ブランディング戦略

### 領域: 「福山大学ブランディング戦略」の点検・評価(本学独自基準)

2020年度

安全安心防災教育研究センター

中長期計画	<p>備後地域の産学官民連携を推進し、地域の教育資源を最大限に活用して人間性を高め、地域を愛し、地域で活躍し、地域から国際社会につながる「未来創造人」を育成するという、大学全体の方針に則り、工学の立場から瀬戸内の里山・里海学プロジェクトへの参画、ひと・まち・くらしの創造、安全安心な暮らしの創造を柱として本学のブランディングの推進に貢献する。</p> <p>具体的には、「瀬戸内の里山・里海プロジェクト」として、藻場探査、養殖システム、地域遺産の保全と継承、里の災害対策、介護システム、および特別研究としての交通安全の</p>
-------	---

2020年度

安全安心防災教育研究センター

中点検項目	7-1. 福山大学ブランディング戦略の推進
点検項目	① 福山大学ブランディング戦略(ver. 2018)の概略について当該部署の学生及び教職員への周知を進めていますか。
現状説明	全学教授会における説明により全教員に周知しており、母体の工学部より授業や卒業研究を通じて学生への周知も行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A



改善課題	現状を維持した。
根拠資料	①令和2(2020)年度第9回全学教授会資料 ②安全安心防災教育研究センター2019年度活動報告書 ③2020年度卒業研究論文
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	<b>② 福山大学はブランディングを「広告ではなく、社会に貢献する観点から他にはない固有の魅力を引き出して他との差別化を図り、社会から選ばれること」と捉えています。この観点からブランディングにどのように取り組んでいますか。</b>
現状説明	私立大学研究ブランディング事業、企業との共同研究、公的資金による研究とその成果により広く本学のプレゼンスを示している。
年度目標	私立大学研究ブランディング事業及びその他の研究プロジェクト、企業との共同研究、公的資金による研究を深化させ、それをより多くの媒体を通じて開示する事により本学のブランド力向上を図る。
年度報告	福山大学ブランディング推進のための研究プロジェクト優先課題に対し、藻場探査ロボット、藻場環境計測システム、衛星画像利用藻場探査の開発遂行により貢献した。また、国土交通省中国地方整備局の包括連携による委託研究を、道路、河川に関し受託した。
達成度	<b>S</b>
改善課題	
根拠資料	①安全安心防災教育研究センター2019年度活動報告書 ②国土交通省受託研究依頼書「芦田川中下流部の河道形態・構造の防災評価ならびにビオトープの生態評価」
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	<b>③ 福山大学ブランディング戦略では「備後地域の産学官民連携を推進し、地域の教育資源を最大限に活用して人間性を高め、地域を愛し、地域で活躍し、地域から国際社会につながる『未来創造人』を育成すること」を方針としています。当該部署は、この方針の実現にどのように取り組んでいますか。</b>
現状説明	企業との共同研究、公的資金による研究によって産学官民連携を推進し、里山、里海という地域の教育研究資源を最大限に活用して学生研究を実施する事で未来創造人たる学生を輩出することを目標として取り組んでいる。
年度目標	共同研究、受託研究の実施により連携を深化させる。
年度報告	研究プロジェクト優先課題及び国土交通省委託研究にて学生に地域の環境等を題材に取り組ませることにより、『未来創造人』の育成に取り組んだ。
達成度	<b>A</b>
改善課題	
根拠資料	①該当卒業論文、②該当修士論文、③安全安心防災教育研究センター2019年度活動報告書、2020年度活動報告書（2021年9月頃発行予定）
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	<b>④ 福山大学ブランディング戦略では、福山大学が備後地域の知の拠点として地域と共に育ち、地域創生に貢献することを目指しています。この目標の実現に向けて、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。</b>
現状説明	私立大学研究ブランディング事業、福山大学ブランディング推進のための研究プロジェクト、企業共同研究、公的資金による研究を通じ本学が知の拠点となるべく活動を行っており、成果は年度終了時に実施される活動報告で検証するようにしている。
年度目標	現状を維持
年度報告	優先課題に対し、藻場探査ロボット、藻場環境計測システム、衛星画像利用藻場探査、人工知能利用養殖システムの開発遂行により貢献した。また、国土交通省中国地方整備局の包括連携による委託研究を、道路、河川に関し受託した。福山大学外部評価結果により検
達成度	<b>S</b>
改善課題	
根拠資料	①安全安心防災教育研究センター2019年度活動報告書、2020年度活動報告書（2021年9月頃発行予定）、②福山大学外部評価委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	<b>⑤ 福山大学ブランディング戦略では、建学の理念に基づき、「地域の中核となる幅広い職業人」を、育成する人材像としています。そのために、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。</b>
現状説明	地域の特色に基づいた研究や地域企業との共同研究による地域の中核となる職業人の育成に取り組んでおり、年度終了時の活動報告により検証する。
年度目標	各研究事業で着実に成果を上げると共に地域との連携事業の拡大を図る。



年度報告	優先課題や委託研究は学生も含めた取り組みであり、その成果は卒業論文及びその発表会、活動報告により検証している。「地域防災リーダー養成講座」として、一般教育科目「地域防災基礎」、「地域防災応用」の2科目を開講し、防災士を輩出した。
達成度	<b>S</b>
改善課題	
根拠資料	①該当修士論文・卒業論文、②安全安心防災教育研究センター2019年度活動報告書（2021年9月頃発行予定）、③2020年度シラバス
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	<b>⑥ 福山大学ブランディング戦略が掲げる「備後地域との密な連携のもとに進める教育研究」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。</b>
現状説明	広島県警、国土交通省中国地方整備局等との連携研究に取り組んでおり、年度終了時の成果報告により検証する。
年度目標	国土交通省との包括連携契約に基づく芦田川中下流部の河道形態・構造の防災評価ならびにビオトープの生態評価に関する研究事業等では成果を上げると共に地域との連携事業の拡大を図る。
年度報告	国土交通省との包括連携契約に基づく芦田川中下流部の河道形態・構造の防災評価ならびにビオトープの生態評価に関する受託研究の報告書を作成し、国土交通省の検証を受けた。
達成度	<b>A</b>
改善課題	
根拠資料	①「芦田川中下流部の河道形態・構造の防災評価ならびにビオトープの生態評価」報告書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	<b>⑦ 福山大学ブランディング戦略が掲げる「学問にのみ偏重しない全人教育」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。</b>
現状説明	プロジェクト研究（里海の藻場探査プロジェクト、瀬戸内里海の次世代養殖システムの開発研究、「地域遺産」の理念構築とその保全・継承に関する研究、里山と里の災害対策と保全のためのIoTシステムに関する研究、住みよいまちづくりを支援するプライベート音空間を使用した革新的介護システムの構築）を推進させることで、研究に取り組む学生に、課題に向けた取り組み姿勢や発想、関係者との人間関係の構築など、学問だけでなく成長を促すことを図っており、年度終了時の成果報告、関連卒業研究により検証する。
年度目標	現状を維持
年度報告	研究プロジェクトに関しては活動報告書を作成している。また、関連の卒業研究に関しては、卒業論文により成果を検証している。
達成度	<b>A</b>
改善課題	
根拠資料	①該当修士論文・卒業論文 ②安全安心防災教育研究センター2019年度活動報告書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	<b>⑧ 福山ブランディング戦略は、これからも進化させて、さらに発展させることが必要です。ブランディング戦略のブラッシュアップにどのように取り組んでいますか。</b>
現状説明	福山大学ブランディング推進のための研究プロジェクトへの課題申請において毎年見直し、修正を実施しており、その推進をひと・まち・くらしプロジェクトとして支援している。
年度目標	現状を維持
年度報告	海中探査プロジェクト、次世代養殖システムプロジェクトの見直し等のブラッシュアップに取り組んだ。
達成度	<b>A</b>
改善課題	
根拠資料	①令和2(2020)年度安全安心防災教育研究センター運営委員会議事要旨（第5回）
次年度の課題と改善の方策	
2020年度 安全安心防災教育研究センター	
中点検項目	<b>7-2. 福山大学ブランディング推進のための研究プロジェクト</b>
点検項目	<b>① 当該部署では全学的に展開しているプロジェクト研究の「瀬戸内の里山・里海学」にどのように取り組んでいますか。</b>

現状説明	私立大学研究ブランディング事業及び「瀬戸内の里山・里海学」優先課題①の研究分担者として、また優先課題②の研究代表者としてセンター兼任者が取り組んでいる。
年度目標	各研究プロジェクトにて着実な成果を上げる。
年度報告	センター兼務者が研究に取り組み、その活動内容をセンターの活動報告書及び研究プロジェクトフォローシートにて報告した。
達成度	<b>S</b>
改善課題	
根拠資料	①令和元年度安全安心防災教育研究センター活動報告、②2020年度福山大学研究プロジェクトフォローシート
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	<b>㊟ 福山大学ブランディング研究に必要な内部資金及び外部資金をどのように獲得していますか。</b>
現状説明	私立大学研究ブランディング事業の経費補助、研究プロジェクト優先課題、特別研究に申請している。
年度目標	現状資金の他に、個別プロジェクトにて外部資金の獲得に挑戦する。
年度報告	2020年度の研究プロジェクト優先課題に申請し、内部資金を獲得した。国土交通省の包括連携契約による委託研究、兼任教員による科研費等により外部資金の獲得があった。
達成度	<b>S</b>
改善課題	
根拠資料	①令和3(2021)年度予算要求書、②国土交通省委託研究契約書、③科研費採択通知
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	<b>㊟ 福山大学ブランディング研究の成果をどのように社会に発表していますか。</b>
現状説明	社会連携センター主催の研究成果発表会、Webページのサイト、新聞記事にて公表している。
年度目標	現状を維持し、より多くの発表となるよう努める。
年度報告	福山大学研究成果発表集に成果を公表した。Webサイトに成果報告書を掲載して社会に公表した。センター活動報告
達成度	<b>A</b>
改善課題	
根拠資料	①福山大学研究成果発表集、②福山大学WEB
次年度の課題と改善の方策	